

PT (=Physical Therapy) とは理学療法の略称です。

Powerful Tosa!

KPTA
2023
第14号

(公社) 高知県理学療法士協会 広報誌



特集 | 1

私のリハビリ体験記

p.2



特集 | 2

おしえて！
障害者手帳のこと

p.4

腰痛予防のための介助方法
ノーリフティングケア

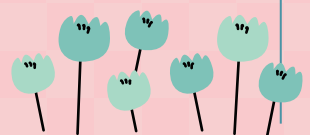
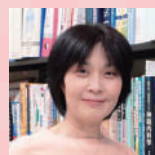
p.6

リレーフォーライフ
ジャパン2022
書籍紹介

p.8

理学療法士の職域紹介

p.9



私のリハビリ体験記



村井 清 様に インタビュー

聞き手：森沢 優哉 谷脇 彩耶
(高知県理学療法士協会 広報部)

今回は、農作業中の事故により両脚を切断された患者様にインタビューをさせていただきました。事故当初の壮絶なお話や、その後のリハビリとの出会い、そして仕事へ復帰された後、新たな新境地としてアーチェリーに身をささげた村井 清様に貴重なお話を聞かせていただきました。

● 事故当初のお話を聞かせていただけますか？

僕はね、事故に遭う前は生姜の生産組合長をやりよりました。事故にあったのは60歳くらいの時やったね。その日、土を掘り返す機械を押しよったがよ。そしたら機械の刃が石を跳ねてね、その拍子に左脚に^{あし}噛んでローラーに脚が巻き付けられてね。右脚も骨が折れ曲がって、右の踵が左肩に乗ったような状態やった。それから体が機械に巻き付いた状態で助けが来るまでに7時間もかかりました。でも、その日は偶然にも大寒波の日でしてね、出血しよった所が凍って血が止まってくれたおかげで命を取り留めたがよ。

● それだけの重大事故で命が助かったのは奇跡ですね。

でもその後の身体的、精神的苦痛は想像もできません。最初のリハビリを受けた時のことは覚えていますか？

最初、片脚は太腿で切断しちよったけど、片脚は膝の下まで残ちよった。でも膝の下も壊死してしもうて結局両脚とも太腿で切断になってしもうたね。最初は高知の救急病院でリハビリをしてくれてね、包帯を巻いて綺麗な断端になるようにやってくれました。切った脚は固まってくるきね、そうならんようにリハビリの先生が筋肉を伸ばしてくれた。傷が落ち着いたら兵庫県の病院に移りましてね、そこでは全国から手足を切断した人がリハビリに来てましたね。最初のリハビリはまず座る練習からやった。最初は何かにすがちよらんと座れんかったきね。座ることができるようになってから両脚の義足で歩く練習をしましたね。一番きつかったのは筋力トレーニング。転んだ時に起き上がれないかんでしょう。だから片手でも体を起こせるくらい腕の力もつけました。最終的に杖もつかずに歩けるようになりましたよ。退院してからは1km以上歩きよったきね。

● リハビリが嫌になることはなかったですか？

それはなかったですね。





● 常に前向きに取り組まれていたのですね。

これは家族にも心配かけるきあんまり話さんかったけど、退院してからも兵庫へ通院するときに色々思い悩むときもありました。車を運転してましたよね、時々車を停めては死に場所を探した時もありましたよ。そんな時に生きる糧になったのが孫の存在でした。孫が小さい頃はずっと面倒みよった。脚が無い状態でも子供の世話もできましたぞね。

● 自らの生活が自立しただけでなく、お孫さんの世話までできるほど回復されたんですね。

その後もしばらくリハビリには通われたのですか？

兵庫の病院からぜひ来てくれという依頼がありましてね、そこには大勢の同じような障害を受けた患者がいっぱいおりましたよね。リハビリを頑張ればここまでできるという姿を見せてあげてほしいと言われたのよ。こんな歳のおじさんでも頑張ったら歩けるようになるんだという希望を与えるために何回も足を運びましたよ。

● 経験された方から教わることは一番説得力がありますよね。たくさんの方に希望を与えてくれたんですね。その後、ご自身の生活としてはどのような展開があったんですか？

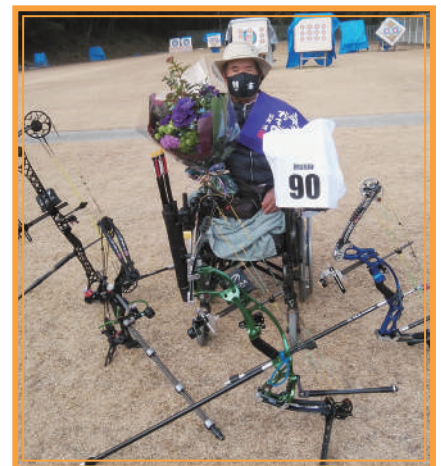
もう70歳も過ぎたら農作業も難しくなるし、何かできることを見つけないかなーと思うてました。そんな時に「アーチェリー」の記事を見つけましてね、障害を持った人でも健常者と対等に闘えるスポーツがあるということを知りました。その出会いが65歳の時でした。70歳の時には日本代表で外国も行きましたよ。招待選手として韓国にも行きました。韓国へ行く道中には、これが引き時だなあと考えていましたけど、帰る時は考えが変わっていました。なぜかという、韓国の人からぜひこれからもアーチェリーを続けて皆の希望になってほしいと言われたんです。それから考えが変わってね、90歳を超えた今でも現役を貫いています。今でもスコアを更新したいと思っていますよ。

● そこでも村井さんの活動が人の希望になっていたんですね。

最後に、同じような経験をされた患者さんや、これからリハビリを勉強する学生、現役の理学療法士に向けてメッセージを頂けませんか？

動けるということは何よりも大事です。障害を持った人ほどリハビリ、スポーツというのは大切だと思います。それから、リハビリをする上で一番大切なのは「お互いを思いやる」です。これが無いと成り立ちません。それが一番大事ですね。

● 貴重なお言葉をありがとうございました。我々も今一度患者さんに寄り添い、相手を思いやる姿勢を見直して日々理学療法に取り組みたいと思います。



おしえて！ 障害者手帳のこと



皆さん『障害者手帳』についてご存じですか？「聞いたことはあるけどよく分からない」、「そもそも手帳があると何が良いの？」などとお思いの方も多いのではないのでしょうか。

今回は、障害者手帳の申請方法や受けられるサービスなどを一人でも多くの方に知って頂き、より充実した日常生活又は社会生活を送っていただけるお役に立てればと思います。

注) 障害者手帳に関しては、市町村によって適応範囲等の違いがあります。詳細は、市町村の福祉担当窓口にお問い合わせください。

障害者手帳とは？

身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の3種の手帳の総称です。

以前は、各手帳によって色や大きさが異なりましたが、現在は水色に統一されました。

このコーナーでは、理学療法士が携わることの多い『身体障害者手帳』についてご紹介します。

身体のどこに障害があると申請できるの？

手や足・体幹などの肢体の不自由
視覚、聴覚または平衡機能、音声・言語またはそしゃく機能
心臓、腎臓、呼吸器、膀胱または直腸、小腸、肝臓、免疫機能に障害のある方が対象となります。

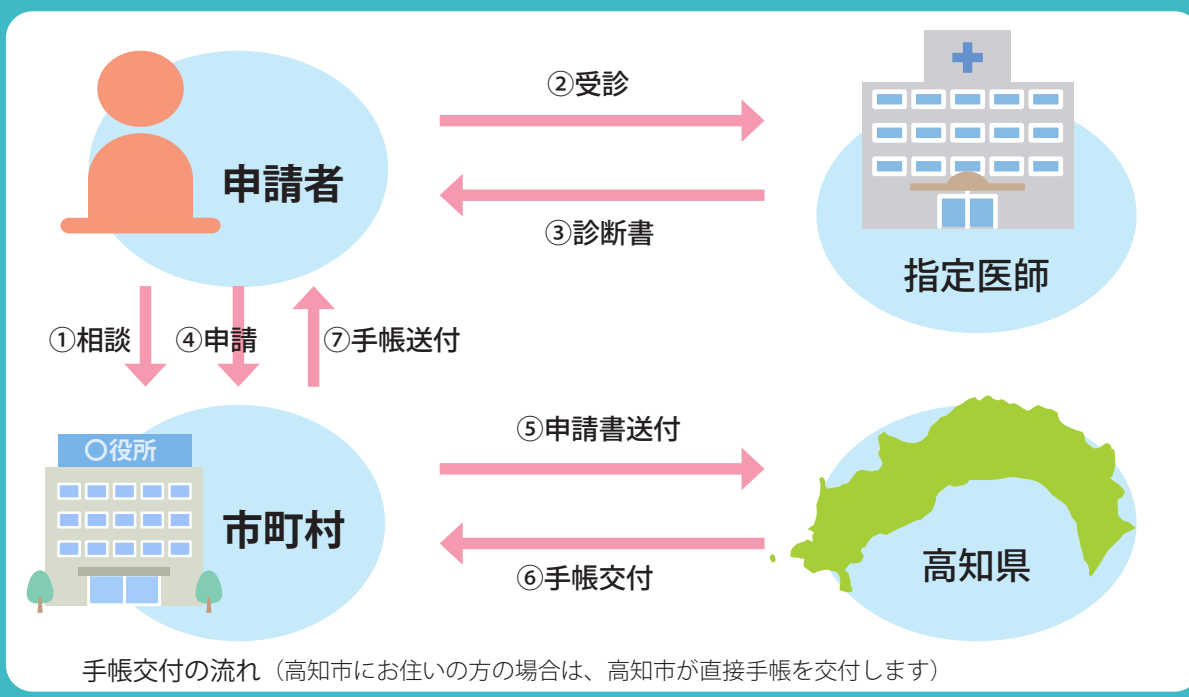
何の為にある手帳ですか？

身体障害者手帳は、身体に一定の障害がある人が、各種の福祉サービスを受けるため必要な手帳です。障害の種類と程度によって、1級から6級まで区分されています。

申請手続きはどうやってしますか？

お住いの市町村の福祉担当窓口にご相談の上で、申請に必要な書類をお受け取りください。

【必要書類】申請書、診断書、写真3枚（タテ4cm×ヨコ3cm）、マイナンバーの確認ができる書類、身元確認ができる書類



ここからは、身体障害者手帳が交付されることにより、
受ける事が可能な各種福祉サービスについてご紹介いたします。

医療費の助成は受けられますか？

高知県内にお住いで、医療保険に加入されており、障害の程度が下記に該当される方は、医療費にかかる自己負担分について市町村から給付されます。

＊ただし、65歳以上で平成15年10月1日以後、新たに重度障害者の認定を受けた人は、対象となりません。（市町村民税非課税世帯の人を除く）

対象者：身体障害者手帳 1級または2級の人

利用方法：①お住まいの市町村役場で、障害医療費受給者証の交付を受けてください。
②受診する際に、健康保険証と受給者証を窓口に掲示してください。

*1 入院時の食事費用は対象になりません。

*2 医療保険に加入していない人は適応されません。

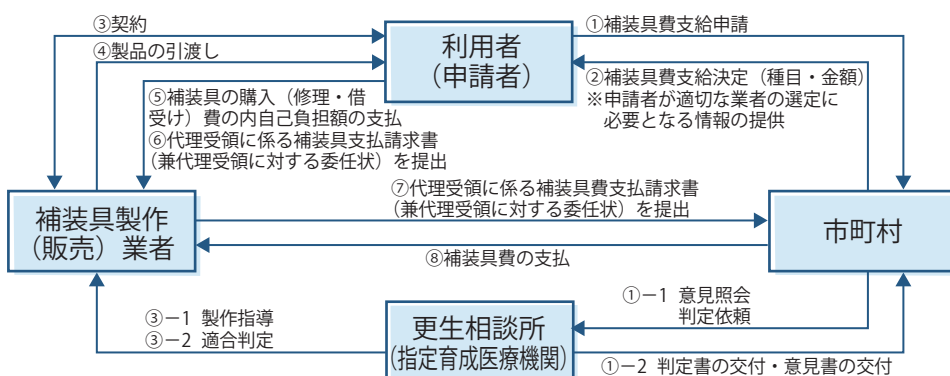
*3 市町村によって対象要件を広げている場合もあります。詳細は各市町村役場にお問い合わせください。

補装具等の支給はしてもらえますか？

身体上の障害を補うため、義肢・装具または電動車いすなどを必要とする方に補装具費の支給が行われます。



●支給のしくみ（代理受領方式の場合）



※適合判定・・・完成した補装具が身体に合っているか確認する。義肢、装具、座位保持装置、電動車椅子、車椅子（オーダーメイド）が対象

- 1 利用者の方は、まず市町村役場に相談しましょう。
- 2 指定医療機関で補装具が必要である判定を受けましょう。
- 3 作成業者が医師の指示のもと作成します。
- 4 完成品は医師が身体にあっているか確認します。

交通機関の割引制度はありますか？

JR・土佐くろしお鉄道、電車、バス等運賃の割引があります。第1種障害者の方は介護者と一緒に利用される場合は、介護者も割引対象となる場合もあります。

その他、航空、タクシー、有料道路の割引制度もあるようです。



その他に何か受けられるサービスはないですか？

- 住宅について（住宅改造の助成、県営住宅への入居など）
- 税金の控除・減免（自動車税、所得税、住民税、相続税、贈与税、ゴルフ場利用税など）
- 年金（障害基礎年金、障害厚生年金、特別障害給付金など）
- その他の減免等（NHK放送受信料、携帯電話利用料、県立施設入場料等）
- 仕事について（就労相談、職業準備支援、ジョブコーチ支援、リワーク支援）

まだまだ多くのサービスを利用することができます。基本的な相談窓口は各市町村役場ですので、お問い合わせください。



腰痛予防のための介助方法



ノーリフティングケア

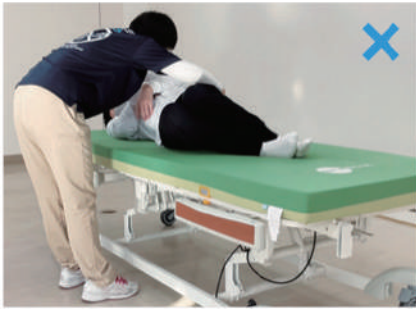
No-Lifting Care

連載
第2回

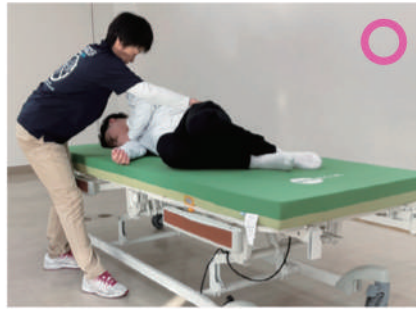
寝返り・起き上がり動作のノーリフト

寝返り動作と起き上がり動作の介助方法について、悪い例と良い例を比べてみましょう。

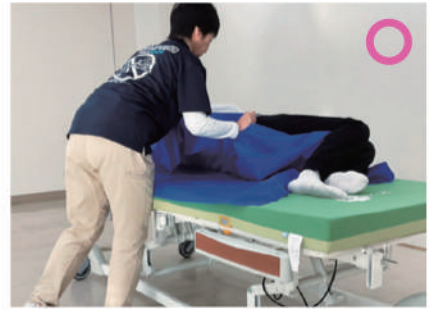
寝返り動作の介助



対象者にとって、丸太状の寝返りは活動性の低下につながる。
介助者にとって、中腰で腕の力だけを使うと腰や肩に負担がかかる。



介助者の体重移動により、対象者の腰部の重さを足側へ、胸部の重さを頭側へ分散させるように介助。



体格の大きな対象者には、滑る用具（スライディングシートなど）を使う。

起き上がり動作の介助



対象者を抱えての介助は介助者の腰部に負担がかかる。腕の力で起こそうとすると、介助者は中腰で腰をひねってしまう。



介助者の体重移動により、対象者の頭の重さを腰に移すように介助。



ベッドの背上げ機能を使う。

バーを設置すれば介助なしで起き上げられることも。一度横になってから足を降ろしてバーを使うのがポイント。

連載一覧

1. ノーリフティングケアって何だろう？
2. 寝返り・起き上がり動作のノーリフト
3. 立ち上がり・移乗動作のノーリフト
4. トイレ動作のノーリフト
5. 入浴・清拭動作のノーリフト
6. ノーリフティングケアの展望

ノーリフティングケアについて、より詳しく知りたい方はQRコードから各ホームページをご覧ください。



高知家
まるごとノーリフティング



Natural
Heartful Care
Network



一般社団法人
ナチュラルハートフルケアネットワーク
代表理事 下元佳子先生 監修

寝返りをうたないでいると、体の一部分に集中して体の重み（圧力）がかかり、皮膚が赤みを帯びて痛むことがあります。それが悪化した状態が「褥瘡（じょくそう）」です。「床（とこ）ずれ」とも言い、圧力が集中した部分の組織の血流が低下し、皮膚や皮下組織が壊死（細胞の死）してしまいます。感覚障害によって痛みを感じないために、

褥瘡の発見が遅れてしまうこともあります。褥瘡を予防するために寝返りはとても大事な動きなのです。

寝返り介助のための福祉用具は、介助者の腰痛を予防しながら効果的な除圧を助けます。

寝返り動作・圧抜き援助



×
身体の下に敷いたバスタオルを使って動かす
※バスタオルは吸水性と摩擦力が高く、皮膚が蒸れ、褥瘡になりやすい



○
シート型スライディングシートを用い、吊り上げ式リフトで操作して寝返る



○
スライディンググローブでの圧抜き

プラマイ±0ゼロ体操



不良姿勢（マイナス姿勢）での作業が続くと腰の負担が増強。

プラス姿勢をとって腰痛ゼロに！

周囲の安全を確認して、痛みのない範囲で行いましょう。

高知家ノーリフティング推進委員会

腰痛予防教育部会

リハビリテーション病院すこやかな杜 作成

マイナス姿勢

腰を捻った作業や
数秒の中腰の作業姿勢でも
腰に負担



プラス姿勢

顔は正面を向く
脇腹を伸ばす

- point 1. 肩が痛い場合は腕を上げない
- point 2. 体は伸ばしたまま
- point 3. 息をゆっくり吐きながら



「直立二足歩行の人類史 人間を生き残らせた出来の悪い足」

ジェレミー・デシルヴァ(著) 赤根洋子(訳) (文芸春秋2022)

「鶏が先か卵が先か」の例えと同様に「ヒトは直立姿勢を取った故に脳が大きくなったのか、脳が大きくなって頭が重くなったので直立二足歩行をするようになったのか」の論争が行われてきた。直立したから手が自由に使える言葉も話せるようになって脳が大きくなったのか、四つ這いでは頭が重たいと前につんのめってしまうから立ち上がったのか、という話である。

結論は出ている。樹上生活からいきなり直立二足歩行に進化したのだ。もちろん、始まりは森での樹上生活と草原での直立二足歩行であったと思われるが、化石にはナックル歩行(四つ這い)の痕跡はないことから、吉本新喜劇「森田まりこ」のパフォーマンスである『ゴリラから人類への進化(人類進化の進行図)』モノマネの様な進化過程ではないのだ。

樹上生活をしていたサル(monkey)から、600万年前にチンパンジーやゴリラなどの類人猿(ape)と袂を分かち合ってヒトの祖先(ヒト族:ホミニン)が生まれた。ホミニンは、大まかには、「初期の猿人」「猿人」「原人」「旧人」「新人」に分類されるが、多くの人類の種は絶滅して、ヒト族では唯一の種が「新人」で現生人類の『ヒト:ホモサピエンス』である。

東京上野の国立科学博物館にあるアファール猿人の女性「ルーシー」のレプリカをご覧になったことがあるかもしれない。ルーシー(アウストラロピテクス)に進化したのは320万年前である。本著によれば、ルーシーにも横から見ると現代人と同じ脊柱のS字状湾曲があるとのことで、腰痛の根源は既にあったのだ。歴史的には、農耕文化が腰痛症を発症させたとされ、メソポタミア文明に食

料に小麦を挽いている粘土板文書が発見されたことから、この時代に始まったとされるが、ルーシーの時代にも変形性脊椎症はあったかもしれない。

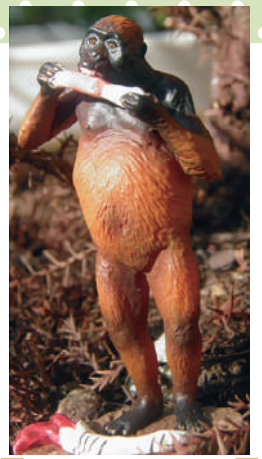
なお、文中一か所、理学療法士が「歩行」の専門家として登場するのは、小生も、理学療法士として誇らしくなる。ただ、翻訳者は医学の専門ではないゆえに、『足回内(足裏を外向ける)』は『足回外(足裏を内向ける)』の誤訳と思われる。

著者は、ヒトの発育の指標を「平均値=正常値」と誤解されている点に注文を付けたうえで、元来は四つ這いや歩き初めに成長の個人差が大きいが、誰もが成人までには歩行を獲得するものであり、進化の過程で獲得した直立二足歩行はヒトのみの遺伝子に組み込まれた偉大な能力であることを強調している。そして、直立二足歩行(走行)が脳を発達させることを。

なお蛇足ながら、時間がとれるなら、歩行(走行)と脳の関係についての3冊、「ジョン・J・レイティ他著:脳を鍛えるには運動しかない(NHK出版)」「アンデシュ・ハンセン著:スマホ脳(新潮新書)」「アンデシュ・ハンセン著:運動脳(サンマーク出版)」もあなたに読んで戴きたい。

小生、原稿を書いているときは、考えに行き詰まるど部屋の中を歩き回る癖があるが、これ、やはり理にかなっている???

(山本双一)



海洋堂フィギアのルーシー

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2022

高知大学医学部付属病院 小川 真輝

10月22日(土)~23日(日)にかけて、チャリティーイベント「リレー・フォー・ライフ」が開催されました!

リレー・フォー・ライフ(以下RFL)とは、がん征圧をめざすためのチャリティー活動です。1985年、アメリカの医師が陸上競技場を24時間走り続けて、がん患者への寄付を募ったことがはじまりです。その後、患者、家族、友人、医療関係者たちが一緒にチームを組むリレー形式となっていきました。そして、24時間常に闘病している患者を勇気付けるために夜を徹して歩き続けるなかで、地域社会全体でがんを闘うための連帯感を育む場として広がり、今では世界の5,500ヵ所以上、日本でも50ヵ所以上で開催されており、高知県では2008年より開催され、今年で15回目となります。

現在、日本人の2人に1人は一生のうちに何らかのがんにかかり、3人に1人ががんで亡くなっています。がんはすべての人にとって身近な病気ですが、近年の診断技術の進歩に伴ってがん患者の生存率は向上しており、長期に渡り生存する「がんサバイバー」も増加しています。また、がんの治療過程においては、がん自体や治療に伴う合併症によって生活の質が低下するリスクが高く、早期退院・早期社会復帰を図るためのリハビリが必要とされています。このように、がん患者に対するリハビリが広がっている現状において、一般の方にも理学療法士を知っていただくという趣旨も込めて、高知県理学療法士協会も毎年参加しています。

例年であれば、おでんやバーベキューを楽しみながら交代制で24時間歩き続けるのですが、コロナ禍ということもあり今年では参加者・参加時間を縮小して日中のみの参加となりました。がんサバイバーや多職種とのコミュニケーションが図れる有意義な機会だと思いますので、来年開催の折にはぜひともご参加いただき、一緒にイベントを盛り上げてもらえればと思います。



理学療法士の職域紹介

「理学療法士とは??」

理学療法とは病気、けが、高齢、障害などによって運動機能が低下した状態にある人々に対し、運動機能の維持・改善を目的に運動、温熱、電気、水、光線などの物理的手段を用いて行われる治療法です。「理学療法士及び作業療法士法」第2条には「身体に障害のある者に対し、主としてその基本的動作能力の回復を図るため、治療体操その他の運動を行なわせ、及び電気刺激、マッサージ、温熱その他の物理的手段を加えることをいう」と定義されています。理学療法の直接的な目的は運動機能の回復にあります。日常生活動作（ADL）の改善を図り、最終的にはQOL（生活の質）の向上をめざします。病気、けが、高齢など何らかの原因で寝返る、起き上がる、座る、立ち上がる、歩くなどの動作が不自由になると、ひとりでトイレに行けなくなる、着替えができなくなる、食事が摂れなくなる、外出ができなくなるなどの不便が生じます。誰しもこれらの動作をひとの手を借りず、行いたいと思うことは自然なことであり、日常生活動作の改善はQOL向上の大切な要素になります。理学療法では病気、障害があっても住み慣れた街で、自分らしく暮らしたいというひとりひとりの思いを大切にします。

『養成校教員』



高知リハビリテーション専門職大学
リハビリテーション学部 リハビリテーション学科
理学療法学専攻 専攻長

稲岡 忠勝 先生



● 普段の業務内容を教えてください。

講義、臨床実習に関する業務や学生指導、専攻の運営に関わる業務を行っています。

● 学生との関わりで意識されていることを教えてください。

- ① 自身で気づき、取り組めるような会話・指導にする。
- ② 可能であれば体験させる。
- ③ 遠からず近からずの距離感を保つ（難しい）。

上記3点を意識しています。

● 理学療法士としてのモットー（信念、座右の銘）を教えてください

座右の銘：他山の石（人の振り見て我が振り直せ）。

● 理学療法士を目指す方へ一言お願いします。

理学療法士の仕事は人の人生を支えるとてもやりがいのある仕事の一つです。

その範囲は最近では広がっており、病院や施設での勤務以外で働く人も増えてきています。人とのかわりが得意、あるいは好きという方はとても相性が良いと思います。そうでなくても研究など学術で活躍できる場も増えてきています。やりがいがあり、職域絶賛拡大中の理学療法士を目指してみませんか？



高知医療学院
理学療法学科
教務部長

小野 美紀 先生



● 普段の業務内容を教えてください。

メインは、担当科目の授業です。合わせて、教務部長として、各学年が計画通りカリキュラムが進行しているか、学生の出席や学習状況の確認も行なっています。特に、補習や面談など学生との交流は欠かせず、定期的に保護者との面談も実施します。また、実習施設との調整、入試やオープンキャンパス、進学相談会への対応も行なっています。その他、関連団体の会議や講習会講師、研究活動関連の学会参加等も積極的に取り組んでいます。

● 学生との関わりで意識されていることを教えてください。

私が学生との関わりで意識していることは、学生の意見を聞き、お互いに納得して進行することです。また、理学療法士としての知識・技術習得は当然ながら、社会人として成長してほしいと願っています。特に、学生に自分自身の言動や行動に責任を持たせ、その背景にある考え方について、意見交換することを心掛けています。

● 教員をされる前のお話を聞かせてください。

教員になる前は、愛宕病院、愛宕病院分院で勤務していました。中枢、整形疾患等の患者様を担当しました。現在でも年賀状交換している患者様が何名かいます。担当した患者様の社会復帰状況や子供さんの成長など、患者様の人生の1ページに携われたことに感謝を忘れず、年始には理学療法士として初心に戻っています。現在は、学生の人生の1ページに携われることで、責任を感じる年始でもあります。

● 理学療法士を目指す方へ一言お願いします。

医療従事者は、男女差がなく、国家資格を取得することで、その資格を活かして活躍することができます。理学療法士は、病気やケガなどが原因で、身体に障害を有した場合、身体と心の両面から機能維持・回復をはかる重要な仕事です。そして、医療・福祉分野だけでなく、スポーツ分野・予防分野・研究分野など活躍分野が広がっています。その人らしく生活するためにサポートできること、考えること、専門的な知識を持ち、理学療法士だからできることに挑戦していきましょう！

養成校紹介



高知リハビリテーション専門職大学
高知県土佐市高岡町乙 1139-3
〒781-1102
TEL : 088-850-2311
FAX : 088-850-2323

高知リハビリテーション専門職大学



土佐リハビリテーションカレッジ
理学療法学科
学科長

宮本 祥子 先生



● どのような授業を受け持たれているのですか？

①医学英語など英語関連の科目、②小児疾患や脊髄障害など神経障害に関係した科目、が主な担当科目です。

● 教員としてのやりがいを教えてください。

学生達は私と同じ職業に就くので、卒業した後もお互いに仕事仲間として長い年月に渡って関係性が続いていくところに良さを感じます。この点は通常の大学の学生と先生との関係性と違うところで、医療専門職の利点だと思います。臨床で活躍している卒業生と、夜遅くまで一緒にグラスを傾けている時が一番楽しいです。久しぶりに一緒になると、巣立った子どもが里帰りをしたような感覚がして、安堵感と嬉しさに包まれます。

● 教員をされる前のお話を聞かせてください

イギリスでの病院研修が一番印象に残っています。土佐リハ入職前ですので随分昔になりますが、当時研修先の病院では、精神科領域の患者様を対象とした理学療法が既に当たり前に行われていました。今、日本では大きなトピックスになっています。また作業療法部門では、園芸療法もよく行われていました。

● 理学療法士を目指す方へ一言お願いします

理学療法士は「マジシャン」に似ていると思います。相手の心を読み、変化を与え、プラスの方向へ導いていく存在です。体に変化を起こす理学療法士も、「マジック」を応用して人々を魅了させるマジシャンも、手段は異なりますが人々と関わり“笑顔”にする目的は同じだと思います。「ハンドパワー」で笑顔を引き出すために、理学療法士を目指す方には一旦その道についたら、生涯にわたってコツコツ努力を積み上げて欲しいです。専門家になるということは、専門領域外の人々が立ち入れない砦（とりで）をもつということです。砦を築くためには、頭やからだを動かし、汗をかき続ける必要があります。誰の目にも立派に映る砦を築いて欲しいと思います。



リハビリテーション専門学校 高知医療学院
高知県高知市長浜 6012-10
〒781-0270
TEL : 088-842-0412
FAX : 088-841-1783

リハビリテーション専門学校 高知医療学院



土佐リハビリテーションカレッジ
高知県高知市大津乙 2500-2
〒781-5103
TEL : 088-866-6119
FAX : 088-866-6120

土佐リハビリテーションカレッジ

編集後記



今号の特集1「リハビリ体験記」では、生死をさまよう大事故により、両脚を失う経験をされた村井様のインタビューを掲載しました。一時は生きる希望を失いかけたにも関わらず、その後新たなスポーツに挑戦し、90歳を超えた今でも向上心が尽きない姿には、取材をする我々も心を動かされました。リハビリの大切さをたくさん語っていただき、我々の仕事の重要性も再認識することができました。

理学療法士の「職域紹介」では、今回「教員」という職域を紹介させていただきました。教える立場の面白さややりがいを知っていただくと同時に、この理学療法士という仕事を目指すなかで、学生も社会人として大きく成長でき、医療人に必要なスキルが身につけられるという点も読者の皆様に伝われば幸いです。

また、昨年より連載開始となった「ノーリフティングケア」に関しては、寝返り・起き上がりの介助といった、介護場面では日常的に行われている動作に着目しています。読者の皆様も、過去に介護を経験された方や、昨今では、新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、在宅で家族の介護を強いられている方もいらっしゃるかと思います。「介護は突然やってくるもの」という言葉を聞いたことがあります。その状況になってからあわてないためにも、少しずつコツコツ介護の知識を身につけていくことが大切です。

最後に、次号「ばわふるとさ! 第15号」(来年3月発行予定)より、県内の各高校へ発送を計画しております。進路に迷われている学生さんやその父兄の皆様にも気軽に手に取っていただけるような機関紙にしていきたいと思っておりますので、次号からどうぞ宜しくお願いいたします。

公益社団法人 高知県理学療法士協会 広報部長 濱尾英史

御意見、御要望等ありましたら、
下記発行所までお願いします。



高知県理学療法士協会のシンボルマークです

ばわふるとさ 第14号 令和5年3月20日発行

発行所 公益社団法人 高知県理学療法士協会
〒780-0054 高知県高知市相生町1-25
レジデンスノナミ107号室
TEL & FAX : 088-879-8023
<http://www.kopta.net> e-mail: jimukyoku@kopta.net



発行者 宮本謙三
広報部編集委員会